

令和2年度 英語教育充実プラン 高知市立第四 小学校		研究テーマ (英語教育推進方針)	「 英語を使って、自ら考え、伝え合うことができる児童の育成 ～ 児童が主体的にコミュニケーションを図る授業づくりを通して ～ 」			
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）			
調査項目（意識調査の項目）			肯定的回答%	達成状況	考察	
児童	①英語で友だちや先生と会話することが楽しい。	1 児童意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・①②③をいずれも3%以上の向上を目指す。 2 教員意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・④を3%、⑤を5%、⑥を5%以上の向上を目指す。	86.7%	①-3.8% *3～5年生は、ほぼ変わらなかったが、6年生が-14%と低かった。 ②-6.3% *6年生が-22%と低くなっているが、一方で5年生は+7%と高くなっていた。3つの項目でこの質問が一番下がっていた。 ③-5.8% *4年生が-8%、6年生が-21%と肯定的回答が下がっていた。ただ、3年生と5年生は、年度当初より高くなっている。	年度当初にあげていた3つの項目の全てがマイナスの結果となった。特に、6年生の肯定的回答が大きく減少しており、全体のマイナス傾向に影響していると考えられる。ただ、高学年でも5年生は、英語の授業を楽しみにし、意欲的に取り組んでいる。今後は、児童が自分の気持ちや考えを伝えたいと思えるような場面設定を工夫したり、単元ゴールの設定において目的を明確に示したりして、児童のやる気につなげていきたい。	
	②英語で自分のことや意見を発表することが楽しい。		70.2%			
	③英語が好きだ。		82.1%			
教員	④学習評価の在り方について理解できている。		76.9%	④15.4%向上		3つの項目とも到達目標の数値を上回る結果が見られた。今年度は、公開授業に合わせて講師を招聘し研修を行うことで、授業改善につながる、より具体的な話を聞くことができた。また、学習評価についての校内研修を早い段階で行ったことが、教員の理解につながったと思う。来年度は、校内の教員のための研修の時間も設定するようにし、より具体的で、実践につながる研修も行っていきたい。
	⑤「新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり」等を活用して、授業の工夫・改善を行うことができている。		61.5%	⑤15.4%向上		
	⑥英語に対する苦手意識を感じていない。		69.2%	⑥7.7%向上		
到達目標達成のための取組		取組計画		指標達成状況		
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価	
英語教育の推進体制の整備	◆管理職のリーダーシップによる校内研修体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力や英語力向上についての研修計画を立てる。 ・学校の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。 ・公開授業等を通して、研修の充実を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り、全学級が授業を公開することができた。 ・学校の実態を具体的に把握し、全国大会も視野に入れた校内の研究体制を再考し、より実践的な内容を研修に組み込んでいきたい。 	B	
英語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、活用（設定・公表・把握 80%） ◆外国語活動・外国語科の年間指導計画の作成及び年間カリキュラムの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、「何ができるようになるか」を児童や保護者と共有するとともに、目標の達成状況を把握する。 ・小中の連携（中学校教員による小学校の授業参観及びTTによる授業乗り合わせ） ・研修協力校での連携（公開授業や研修への相互参加など） ・外国語活動・外国語の参観日を実施し、実際に授業を見てもらうことで保護者や地域の方への理解を図る。 ・年間カリキュラムの作成・運用 		<ul style="list-style-type: none"> ・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の作成を進めることができた。来年度は、効果的な「CAN-DOリスト」の活用を考えていきたい。 ・研修協力校で連携をとり、公開授業や研修への相互参加を行うことができた。 ・保護者に向けて、英語参観日を実施することができた。 	B	
英語教育の指導方法及び学習評価の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ◆教員意識調査 ⑤肯定群 66%以上 ◆児童意識調査 ③肯定群 85%以上 ◆GTECの実施・活用（結果の分析・把握・研究の妥当性の検討）読む(H31)67→(R2)70 話す(H31)71→(R2)74 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で推進教員を中心とした全校研や校内研修を実施し、学校全体として授業改善を進める。 ・講師招聘のもと、英語教育の指導方法及び学習評価についての研修会を実施する。 ・「Kochi 使える広がる Fun! Fun! えいご」等を授業で活用し、児童の英語力向上をめざす。 ・児童が英語を使う必然性のある場面設定をし、進んでコミュニケーション活動が行えるように単元ゴールの設定を見直す。（場面設定をはっきりさせることで、児童が学習の成果を実感できるようにする。） ・児童一人一人の学習状況の把握に努め、児童の意欲を高める学習評価の在り方について研究する。（評価におけるパフォーマンステストの研究など） ・先進校などへの公開授業や研修への参加 		<ul style="list-style-type: none"> ・教員意識調査⑤の肯定群が66%以上となった。 ・児童意識調査③の肯定群が76%であり、目標指標の85%以上に届かなかった。今後は、単元ゴールに向けた場面設定をはっきりさせ、児童が学習の成果を実感できるような授業を行うことで、学習意欲を高めたい。 ・HRTとALT、推進教員でのミーティングを週2回行うことで、PDCAサイクルが効果的に行われ、学校全体の授業改善につながった。 	B	